

【展覧会】4月4日(土)より「飄々表具—杉本博司の表具表現世界—」を開催

《シオラマ》《劇場》《海景》といった写真シリーズで世界的に知られる現代美術作家 杉本博司。その活動は古美術蒐集、建築、庭園、舞台演出、インスタレーションなど多岐にわたります。

これまでに細見美術館では、杉本が企画構成し、蒐集品で床飾りのしつらえを行った「味占郷—趣味と芸術—」展（2016年）、彼がリスペクトする謎のコレクター 夢石庵の美意識を再現した「末法」展（2017年）と、2回にわたり杉本の視点で日本美術を紹介してきました。

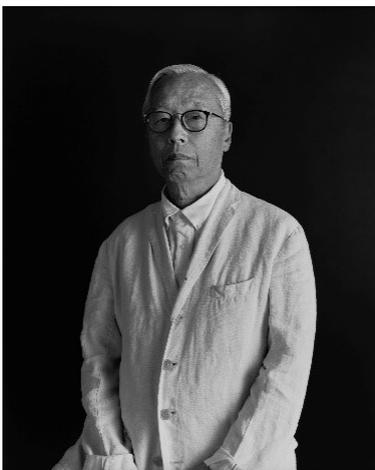
3回目となる今回のテーマは「表具」。作品鑑賞の際、本紙と呼ばれる部分を愉しむことが中心となりますが、今回は作品の名わき役とも言える、本紙を包み込む「表具」に焦点を当てています。この表具とは、布や古裂などを用いて作品を掛軸などに仕立てること。美術品は表具を施すことで美術品は守られ、引き立てられてきました。さらに、古裂自体も鑑賞の対象として愛でられています。杉本は、自身の作品や古今東西の蒐集品を、そうした古裂や皮、さらには男性用チュニックなども用いて、独自のセンスで新しい姿に仕立てています。これらの作品は“杉本表具”と呼ばれています。

本展は、自身の写真を掛軸・屏風・額といった様々なフレームで飾った作品を展観する第一部と、“杉本表具”と細見コレクションの競演の二部構成とし、表具の持つ表現の可能性を探ります。

美術表現が多様化するこの時代に、飄々として世を渡る、数寄者杉本博司の美意識と、余芸というには余りある表現世界をご堪能ください。



「華嚴滝関」杉本博司
1997年（2005年軸装）小田原文化財団蔵
©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Odawara Art Foundation



作家プロフィール

杉本博司 HIROSHI SUGIMOTO

1948年東京生まれ。1970年渡米、1974年よりニューヨーク在住。代表作に「シオラマ」「海景」「劇場」シリーズ。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、MOA美術館改装（2017）を手掛ける。2009年に公益財団法人小田原文化財団を設立。2017年10月、文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」を小田原市江之浦にオープン。2019年秋にはパリ・オペラ座にて演出を手掛けた『At the Hawk's Well（鷹の井戸）』を上演。主な著書に『苔のむすまで』、『現な像』、『アートの起源』、『趣味と芸術—謎の割烹味占郷』などがある。2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞（絵画部門）受賞。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ叙勲。2017年文化功労者。作品は、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）やボンビドゥセンター（パリ）など世界有数の美術館に収蔵。

■主な出品作品

「華巖滝図」 杉本博司

1997年（2005年軸装） 小田原文化財団蔵

©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Odawara Art Foundation

「素麺のゆでかげん」 大田南畝（蜀山人）

江戸時代後期 個人蔵

「地藏菩薩後光図」

鎌倉時代 個人蔵

「墨筆抽象画」 白髪一雄

1960年代前半 個人蔵

「罐鈴汁缶」 アンディー・ウォーホール

1974年 個人蔵



「素麺のゆでかげん」 大田南畝（蜀山人）
江戸時代後期 個人蔵



「地藏菩薩後光図」
鎌倉時代 個人蔵



「墨筆抽象画」 白髪一雄
1960年代前半 個人蔵



「罐鈴汁缶」 アンディー・ウォーホール
1974年 個人蔵

■会期中のイベント

◎会期中のイベント◎

特別展示 at 茶室 古香庵

杉本博司×ぎをん齋藤「摺箔金銀波濤図屏風」

4月4日(土)・5日(日)

時間：午前11時～午後5時

会場：茶室 古香庵

※入場無料

特別対談 at 茶室 古香庵

杉本博司氏×千宗屋氏(武者小路千家15代家元後嗣)

4月26日(日)

時間：午前11時～(約60分)

会場：茶室「古香庵」(細見美術館)

会費：1,000円※会費に入館料は含まれません。

定員：45名

申込期間：4月1日(水)～ ※事前申込制

申込方法：当館ホームページよりお申込みください。(TELでも受付しております)

ギャラリートーク

4月26日(日)

時間：午後4時～(約45分)

※聴講無料 ただし別途入館料が必要

■開催概要

1. 展覧会名称 飄々表具—杉本博司の表具表現世界—
2. 会 期 2020年4月4日(土)～6月21日(日)
前期：4月4日(土)～5月17日(日)
後期：5月19日(火)～6月21日(日)
3. 開 館 時 間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
4. 休 館 日 毎週月曜日(ただし、5月4日は開館)
5. 入 館 料 一般 1,400円(1,300円) 学生 1,100円(1,000円)
※()内は20名以上の団体

6. 主催 細見美術館 京都新聞
7. 協力 公益財団法人小田原文化財団 ギャラリー小柳
8. 会場 細見美術館
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3
TEL075-752-5555 FAX075-752-5955
ホームページ <http://www.emuseum.or.jp>

資料（画像）・取材をご希望の方は、
ホームページリリースページより「資料（画像）申込フォーム」
もしくは右記「QRコード」をご利用いただき、お申込みください。



【担当・お問合せ】

学芸：伊藤京子 gakugei@emuseum.or.jp TEL075-752-5555 FAX075-752-5955
広報：三宅由紀 kouhou@emuseum.or.jp TEL075-752-5555 FAX075-752-5955